

令和2年度 事務事業評価報告書

令和3年8月

総務産業常任委員会

評価対象事業名	まちづくり推進事業 16,414千円		
所管常任委員会	総務産業	評価者	
基本政策	多様な主体による地域自治の確立		
政策	持続可能なコミュニティをつくる		
施策	地区からのまちづくりを推進します・公益的な市民活動を支援します		

事業評価（5段階評価）

項目	評価	評価内容			
		理由（該当する項目を三段階で評価）			
		(○) 良好・すべき	(△) どちらともいえない	(×) 不良・すべきでない	
妥当性	4	ア) 社会情勢からみて実施すべきか	○	△	×
		イ) 一定の成果が上がっているか、引続き継続すべきか	○	△	×
		ウ) 行政で行うべきか（税金を使うべきか）	○	△	×
		エ) 他事業とサービスが重なっていないか	○	△	×
		オ) 他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か		△	
		カ) 市民全員のためになっているか		△	
有効性	3	ア) 前年以前と比較し、事業効果は上がっているか		△	
		イ) 事業目標が達成できているか		△	
		ウ) 目標が達成可能な事業であるか	○		
		エ) 目標が低く設定されていないか		△	
		オ) 職員や外部からの人材活用が十分なされているか			
		カ) 環境を保全する配慮がなされているか			
効率性	3	ア) コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か		△	
		イ) 提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か		△	
		ウ) 地域、民間業者等に委託することが望ましくないか			
		エ) 事業に投入された人員は適切か	○		
		オ) 事業の合理化は図られているか			
		カ) 受益者負担等は適切か		△	
総合評価	3.3				

今後の方向性		拡充	評価指標	
※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載		現状のまま継続すべき	5	極めて高い
	✓	見直しのうえ継続すべき	4	高い
		事業単位を見直し (統廃合・縮小のうえ継続)	3	普通
		廃止	2	低い
			1	極めて低い

令和2年度 西脇市地区まちづくり実践補助事業 採択事業実績一覧

事業名	団体名	主な事業内容	事業費 (千円) ※千円未満切捨て	補助額 (千円)
1 西脇地区コミュニティ活動推進事業	西脇地区コミュニティ活動推進協議会	①総務部会 コミセンだよりの発行、コミセンかわら版の発行 ②体育部会 うきうきのび健康体操 ③環境保全部会 イルミネーション電飾、花のある街づくり、とんど焼き ④地区整備部会 ふれあい交流館の管理運営などの高齢化対策、手作りクリスマスツリー、カレンダーの作成 ⑤生活・情報部会 あいさつ運動、ドウジアム前花壇の整備 ⑥環境部会 童子山わらべ花壇整備、コミセンひろば整備、犬のフン対策	633	227
2 西脇区まちづくり計画実践活動事業	西脇区まちづくり委員会	①農業体験交流 日野小学校の児童を対象に農業体験事業を実施 ②桜保全事業 日野地区のシンボルである「日野の郷地藏一本桜」周辺の整備 ③まちの美化清掃活動 ゴミ拾い等の清掃活動を行い、まちを美しく保つ取組 ④安心安全のまちづくり 交通安全や防犯に関するチラシの回覧、日野っ子見守り隊	1,486	973
3 よいところがか日野の里推進委員会事業	よいところがか日野の里推進委員会	①頼政まつり コロナウイルス感染症の拡大防止のため、規模を縮小して開催 ②景観づくり 地区内のコスモスの生育 ③矢笠山の整備 登山道の整備	157	77
4 重春まちづくり事業	重春まちづくり協議会	①広報費 年3回(約8,100部)発行する広報紙 ②花いっぱい 西脇市駅、野村公園などに植栽 ③イベント事業 西脇市駅前イルミネーション装飾	97	76
5 野村地区まちづくり事業	野村地区まちづくり推進協議会	①プロジェクト部会 芳田自治協議会(仮称)への移行準備、野間川芳田公園清掃 ②地域活性化部会 芳田の里花いっぱい運動、ふれあいサロン、芳田ふれあい直売所の充実 ③イベント部会 芳田街道イルミネーション、角尾山登山道整備	1,097	358
6 芳田地区まちづくり推進事業	芳田ふれあい会議		498	449
合計			3,968	2,160

R3.6.29作成

令和2年度市民提案型まちづくり事業の概要				
		予算額900,000円	決算額730,000円	
事業名	団体名	補助額 (事業費)	事業概要	
1 地域文化創生事業	西脇を学ぶ会	132,000円 (132,525円)	西脇の自然、歴史、産業などを深く学ぶことができる講演会等を実施し、地域文化の発展と創造、人材育成に寄与する。	
2 音声アプリ（UDトーク）を活用した情報保障事業	文字通訳サークル ちようちよ	276,000円 (288,390円)	市民講座や市議会中継に字幕を提供するなど、耳の聞こえ方に関係なく誰もが平等に情報を得られるための情報保障活動を実施。	
3 第1回北はりま障がい者美術（アールブリュットアート）公募展事業	北はりま障がい者美術公募展世話人会	178,000円 (317,362円)	障害のある方々への合理的配慮の提供や社会参加の促進を目的に美術展を実施し、鑑賞を通じた交流を図る。	
4 西脇市民の健康増進事業	よりあう	144,000円 (167,101円)	健康運動やものづくり等の活動を通して、市民の健康増進に加え、多世代の交流や障害のある方の社会参加を支援する。	

市民提案型まちづくり事業補助金の実績（H23～R1）					
※補助団体数：29団体		補助件数：66件		補助総額：16,568,000円	
	H23	H24	H25	H26	H27
補助額	1,285,000	2,010,000	1,836,000	1,904,000	2,503,000
補助件数	7	9	7	7	9
	H28	H29	H30	R1	合計
補助額	2,110,000	2,380,000	1,570,000	970,000	16,568,000
補助件数	8	9	6	4	66

（概要）

まちづくり推進事業は大きくわけて3つの事業から構成されている。地区まちづくり実践補助金と市民提案型まちづくり事業補助金、地域自治一括交付金である。委員会では中でも市民提案型まちづくり事業補助金について意見が集中した。なお、市民提案型まちづくり事業補助金とは、①市民活動団体が自主的、主体的に行うまちの魅力を高める又は社会的課題を解決する公益的な事業に対し補助金を交付する②上限は30万円で、交付回数は1団体につき3回まで（つまり3年）という支援制度である。

上記実績に見られるように、平成27年をピークに補助金額、補助件数ともに年々減少している。

（評価）

まちづくり推進事業そのものの存在意義は充分認められるものであるし、むしろこれからどんどん広げていくべきものと委員会では認識が一致した。地域自治協議会も現在は3地区であるが、令和3年度中にも1地区が結成の予定とのことで、ますます活動の拡大と充実が期待される場所である。とはいえ、市民提案型まちづくり事業補助金は、前述のように低迷していることから、制度の見直しや改善が必要との意見で委員会では一致した。よって、委員会の評価としては「見直しのうえ継続すべき」となった。

見直しの内容の方向性については以下の事項を委員会として提言する。

- ・市民提案型まちづくり制度の存在を知らない市民が多い、もっとPRすべきである。
- ・同一事業に対する補助金の交付は3回までとなっているが、事業によっては5回までとすべきである。
- ・補助金の用途は一律に規制すべきではなく、事業目的を鑑みて許可の可否を判断すべきである。
- ・補助対象団体の要件を緩和すべきである。
- ・団体からの申請を待つだけでなく、西脇市の課題を提示して、その課題解決をしてくれる団体を募集する試みを始めるべきである（参考：尼崎市市民提案制度）。

(各委員の意見)

林委員長

市民提案型は制度開始以来、近年徐々に衰退しているように感じる。制度を改正する必要があるのではないかと。団体側も制度の使いにくさを指摘している。また丸投げではなく、市と協働でまちづくりができるような仕組みづくりも必要なのではないか。地域自治一括交付金については、地域によってはまだまだ区長会との棲み分けが確立されていないように感じる。地区まちづくり実践補助金はコロナで中止したものもあり、活動が抑制されていると思うが、地域に根差した大切な活動であるように思う。

美土路副委員長

市民にこの事業の周知がなされているか。市民の定義や制度設計など、今の情勢に合わせた見直しが必要かどうか、一度考えてもいいのではないかと。基本的には継続の方向性でいいのではないかと。

吉井委員

自主的、自発的に取り組む非営利で公益的な事業を支援することは大切である。しかし社会的課題の解決を図り、西脇市の新たな魅力の発見を目指すとの目標達成はまだまだ遠い。自主的、自発的と云うものの、募集の「テーマ」を提案するなど、取り組みの発端を提供し見守る支援も必要ではないか。

村岡委員

これまでに33団体に補助金採択をし、その8割が現在も活動を継続していることは評価に値する。しかし、採択団体の審査結果等はまちづくり推進審議会の議事録の資料等で確認はできるが、場所が非常にわかりにくく検索がしにくいので一般にはなじみにくい感がある。今後はそのあたりのこともできる限りわかりやすく見える化し多くの団体の参加を促すとともに、予算の範囲にとらわれず、応募数や内容等に応じた増額補正など、柔軟な対応を望むところである。

東野委員

市民提案型まちづくり事業は、市民の自主的な活動を応援する大切な事業であると考え。市民が利用しやすいように、さらに工夫が必要であると考え。

岡崎委員

コロナ禍での補助金を活用された事業として、参加者増加につながっていることに驚いた。今後は、市民交流や共生のまちづくりにつながっていくと考えます。また、補助率の高低差もあるが、新たなまちづくり活動の創出として理解できます。

中川委員

元年度予算 120万円（補正後）決算額97万円→2年度予算90万円に対して決算額73万円と縮小傾向。